

人事公募

標準様式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さいますようお願いいたします。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1)所属部門・所属講座、(2)勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1)着任時期、(2)任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1)提出先、(2)問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）。

国立天文台光学赤外線天文学分野教官

1. 助教授1名
2. (1) 光学赤外線天文学研究系
(2) 当面は三鷹
3. 赤外線天文学
4. 国立天文台における赤外線天文学の研究を推進し、すばる望遠鏡の装置開発も行う。また岡山、ハワイなどの観測所での活動にも参加する。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 外国籍の場合は任期を設けることができる。
6. 博士の学位を有するもの。またはそれと同等以上の力を有するもの。
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 研究論文リスト及び主要論文別刷り、(4) 研究計画、(5) 本人について意見を述べられる2名の氏名と連絡先。
8. 1993年1月8日(金)必着
9. (1) 〒181 三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 古在由秀
(2) 国立天文台 光学赤外線天文学研究系
小平桂一

TEL 0422-34-3601
FAX 0422-34-3608

10. 封筒に「赤外天文応募書類」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。
11. 選考は国立天文台運営協議会において行います。

国立天文台太陽物理学分野教官

1. 助教授または助手1名
2. (2) 三鷹
3. 4. 当分野では、太陽物理学に関する観測的・理論的研究を行っており、その手法を適用した恒星・銀河の研究にも手をのばしています。
三鷹・乗鞍の望遠鏡を用いる観測的研究、科学衛星「ようこう」のデータ解析によるコロナ・フレアの観測的・理論的研究に携わり、積極的に太陽物理学の研究を進めるとともに、将来の太陽衛星計画にも全力で立ちむかえる人を希望します。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程終了、又はそれと同等以上。
7. ① 略歴書
② 研究歴（これまでの研究の概要）
③ 論文リスト及び主要論文別刷
④ 自薦の場合、研究計画、及び本人について意見を述べることで出来る人2名の氏名と連絡先
⑤ 他薦の場合は、研究計画も分かる内容の推薦書
⑥ 応募、又は推薦する職種（助教授、助手の別）を明記すること。
8. 1993年1月8日(金)必着
9. (1) 〒181 三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 古在由秀
(2) 国立天文台 太陽物理学研究系
平山 淳

TEL 0422-34-3720

10. 封筒の表に「太陽物理学分野応募書類」と朱

記し、簡易書留でお送りください。

11. 選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

京都大学理学部物理第二教室教官

1. 助手1名
2. 宇宙線研究室
3. X線天文学
飛翔体を用いたX線、 γ 線の観測による高エネルギー天体物理学の研究、及び測定技術の開発（今までの専門分野は問わない）。
5. 決定後なるべく早い時期
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 論文リスト及び主要論文別冊、(4) 研究計画書、(5) 他薦の場合推薦書（選考に必要な資料を被推薦者に請求することがあります）
8. 1993年1月14日(木)必着
9. (1) 〒606-01 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部物理第二教室
主任 益川敏英 Tel 075-753-3834
(2) 同上、または、小山勝二
Tel 075-753-3833
11. 応募の注意 「宇宙線教官公募書類」と朱書き書類にて送付のこと

茨城大学理学部物理学教室教官

[I]

1. 教授1名
2. (1) 宇宙物質学講座
3. 宇宙物質学
宇宙物質の性質・進化・運動について観測・実験または理論の研究をおこなう。
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
6. 博士の学位を有し、大学院の講義を担当できる方
7. ① 履歴書

- ② 研究歴
- ③ 業績リスト及び主要論文別刷
- ④ 研究計画
- ⑤ 着任可能時期
- ⑥ 他薦の場合：上記書類（研究歴、研究計画を除く）の他に推薦書

8. 1993年1月20日(水)必着
9. (1) 〒310 水戸市文京2-1-1
茨城大学理学部物理学教室
主任 菅野正吉
10. 封筒に〔公募（宇宙物質学講座：教授）書類在中〕と朱記し、簡易書留でお送り下さい。
[II]
1. 助教授1名
2. (1) 宇宙物質学講座
3. 電波赤外線天文学
天体の形成と進化・運動について観測・実験的研究を行う。
5. 1993年4月1日(採用予定)
7. 8, 9は[I]と同じ
10. 封筒に〔公募（宇宙物質学講座：助教授）書類在中〕と朱記し、簡易書留でお送り下さい。

第7回「大学と科学」公開シンポジウム 「宇宙誕生・進化の謎を解く鍵-素粒子-」

標記の開催について、同シンポジウム組織委員会から案内がまいりましたので、お知らせいたします。

日時 平成5年1月19日(火)～20日(水)

場所 東京都千代田区有楽町2-5-1

有楽町朝日ホール (03-3248-0131)

(司会者氏名 省略)

第1日目(1月19日)

総合解説：素粒子と宇宙の関わり(10:10～11:10)

高エネルギー物理学研究所 助教授

鈴木厚人

宇宙誕生の謎

(11:10～14:15)

1. 宇宙創成と初期宇宙の形成
東京大学 教授 佐藤勝彦

2. 物質宇宙は如何にして創られたか？
—素粒子基本法則の役割—
東北大学 教授 吉村太彦

宇宙大構造の謎 (14:15~16:30)

1. 見えてきた宇宙の大構造とまだ見えない
原始銀河—観測的宇宙論—
国立天文台 助教授 家 正則

2. 宇宙暗黒物質の謎とその正体
—素粒子に寄せられる期待—
京都大学 助教授 小玉英雄

特別講演：素粒子の統一像 (16:30~17:30)
高エネルギー物理学研究所

所長 菅原寛孝

第2日目(1月20日)

宇宙へのアプローチ (9:30~11:30)

1. 重力波で見る宇宙
—重力波天文学をめざして—
宇宙科学研究所 教授 河島信樹

2. 宇宙からの使者：宇宙論
—宇宙線物理学最前線—
東京大学宇宙線研究所 所長 荒船次郎

地上で初期宇宙を再現する (11:30~12:45)

物質の究極像を求めて
—素粒子実験最前線— (映画上映)
高エネルギー物理学研究所教授

岩田正義

ニュートリノによる宇宙探索 (13:45~17:00)

1. ニュートリノと宇宙
東北大学 教授 柳田 勉
2. 陽子崩壊の探索とニュートリノ天文学の
展開

—宇宙の謎に挑む神岡実験—
東京大学教授 戸塚洋二

3. 星の進化と超新星爆発
東京大学助教授 野本憲一

特別講演：新しい天文学 (17:00~18:00)

東海大学教授 小柴昌俊

第2回「一般相対論と重力」研究会

日時：1993年1月18日(月)~20日(水)

場所：早稲田大学国際会議場
(東京都新宿区西早稲田1-6-1)

内容：一般相対論の基礎に関する問題を総合的に
考察。相対論的天体物理学，宇宙論，広い
意味の重力理論を含む。

申込〆切：1992年12月11日(金)

世話人：石原秀樹(京大教養)，江里口良治(東大
教養)，小嶋康史(都立大理)，二間瀬敏史
(弘前大理)，前田恵一(早大理工)

連絡先：〒169-50 東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学理工学部物理学科 前田恵一

Tel: (03)3203-4141 内線73-3657

Fax: (03)3200-2567

E-mail: maeda@jpnwas00.bitnet

VLBI 観測計画シンポジウム

主催 VLBI 懇談会 (Japan VLBI Consortium)

日時 1992年12月16日(水)~18日(金)

場所 国立天文台 水沢観測センター

内容 天文および測地 VLBI 観測の成果，VLBI
局の現状と今後の展望，天文および測地
VLBI 観測計画，VLBI 観測の新技术とそ
の可能性

事務局 〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山
野辺山宇宙電波観測所 御子柴 廣

TEL 0267-63-4374

FAX 0267-98-2923

日本天文学会早川幸男基金

(若手海外学術研究援助基金) 発足のお知らせ

本年2月5日に逝去された日本天文学会元理事
長早川幸男先生は卓越した研究者として多大の業
績を残されたのみならず、わが国の天文学の発展
と後進の育成に力を尽くされ、大きな貢献を果た
されたことは永く我々の記憶に留まるところであ
ります。(本誌1992年9月号参照)

この度、先生の御遺志に基づき、御遺族より若
手天文学研究者の研究支援にと本会に多額の御寄
付を頂戴しました。本会ではその御趣旨に沿った
使途を考え、評議員会にもお諮りした結果、これ
を基金として若手研究者の海外学術研究援助を目
的とする日本天文学会早川幸男基金(若手海外学
術研究援助基金)を設けることとし、この度下記
の要領で実施の運びとなりました。この目的の基
金の設立はこれまで多くの本会会員から要望され
てきたものであります。今回それが実現できたこ
とは真にありがたいことであり、御遺族の御厚志
に深く感謝する次第です。

最近わが国の若手天文学研究者は急速に増加
し、その目ざましい活躍と成果が国際的にも注目
されていることは大変喜ばしいことであります。
更に、研究活動の場が国際的に広がっている現状
で、海外での観測、国際研究集会、国際共同研究
等の機会はますます増加しつつあります。本会ではこの基金を長期に存続させ、若手研究者の一層の飛躍のため海外学術研究の支援活動を更に発展させて行きたいと望んでいます。そのためにはこの基金の趣旨に御賛同の方々から、額の多少によらず、御援助をお寄せ頂きたく、紙面を借りてお願いする次第です。

理事長 田中靖郎

日本天文学会早川幸男基金募集要領

日本天文学会 早川幸男基金(若手海外学術
研究援助基金)内規に基づき、海外学術研究に

対する援助者の募集(1992年度分)を以下の要
領で行います。

1. 援助金総額 総額 約100万円
2. 援助件数 年間3~5件程度
3. 募集対象期間 1993年1月1日~4月30日
の間に日本を出発するもの
4. 応募必要書類
 - (1) 応募者の氏名・生年月日・所属
 - (2) 海外渡航の主旨説明
 - (3) 渡航先の招聘状、或いは観測割当通知・
講演プログラム等渡航の主旨を証明する
もの
 - (4) 航空運賃の見積書
5. 募集締切 1992年12月20日
6. 決定時期 12月末
7. 応募書類送付先

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内

日本天文学会 早川基金募集係

日本天文学会早川基金 内規

(1992. 5. 14 評議員会決定)

1. 本会は、本会元理事長・故早川幸男氏の意志
に基づき御遺族より本会に寄付された750万
円を創設基金として、若手天文学研究者の海
外学術研究援助を目的とする早川幸男基金
(若手海外学術研究援助基金)を設ける。
2. 本基金は以下により、基金の総額を勘案しつ
つ、若手天文学研究者の海外に於ける観測、
国際共同研究、もしくは研究発表のための渡
航費用の援助を行う。
 - イ. 援助対象資格
日本天文学会会員で、原則として35歳以下
の天文学研究者であって、この基金以外の
海外渡航費(滞在費を除く)の援助を受け
ない者。
 - ロ. 援助金額
目的地までの往復航空運賃相当額。

ハ. 援助対象者の公募

年2ないし3回、「天文月報」誌に公募案内を掲載する。

ニ. 援助対象者の選考

理事長が、評議員3名を含む5名の選考委員を本会会員の中より指名する。選考委員会は随時開催するものとし、次項の選考基準に拠り、援助対象者を決定する。選考結果は評議員会に報告する。

ホ. 選考基準

- a. 観測においては提案が採択され、観測施設の使用が認められていること、
- b. 国際共同研究においては海外の研究者(もしくはその所属する研究機関)の招聘を受けていること、
- c. 国際研究集会においては組織委員或いは講演者として参加すること、
- d. その他、研究の発展に必要な海外での研究活動であり、a~cに準ずるものと認められる場合。

3. 本基金は、創設基金とその利子の他、本基金の趣旨に賛同する個人・団体からの寄付金でこれを運営する。寄付は継続して募集する。

会員の皆様へ

早川幸男基金内規第3項の規定に基づき、個人・法人からのご寄付を随時受付けております。

本基金の趣旨にご賛同、ご理解をいただき多数の方々からのご好意を心からお待ちしております。

ご寄付いただく場合は、日本天文学会へ是非ご連絡下さるようお願いいたします。なおご寄付をお受けするために下記の口座を用意しております。

住友信託銀行 吉祥寺支店
 普通預金口座 5206016
 社団法人 日本天文学会

日本天文学会 1992年秋季年会記事

1992年秋季年会は10月13日(火)~15日(木)の3日間、名古屋大学豊田講堂およびシンポジオンでABC3会場を使って開催した。口頭発表による講演数は、A会場:119, B会場:107, C会場:125の合計351であった。なお座長は次の方々をお願いした。

	会場	午 前	午 後	
13日	A	福井 康雄	中野 武直	長谷川哲夫
	B	吉岡 諭	須藤 靖	吉沢 正則
	C	竹内 峯	伊藤 直樹	柴崎 徳明
14日	A	羽部 朝男	家 正則	
	B	向井 正	小杉 健郎	
	C	富松 彰	杉本大一郎	
15日	A	井上 允	稲谷 順司	森本 雅樹
	B	桜井 隆	平山 淳	——
	C	斉藤 衛	土佐 誠	横沢 正芳

ポスターによる発表は、Post-deadline papers 1件を含めた37件で、14日午後3時50分から約30分間ディスカッションの時間帯を設けた。

◎記者会見

秋季年會前日の午後2時から、豊田講堂特別会議室で記者会見を行い、主に次の4点について解説をした。

司会・進行役は、庶務理事(唐牛)が担当した。

- 1) 星の誕生の瞬間に迫る：
 - おうし座分子雲の全貌を微弱な分子電波で捉える—
 - 福井康雄(名古屋大学)
- 2) 発見された宇宙背景輻射の非等方性と宇宙モデル：
 - 郷田直輝(大阪大学)
- 3) 電波ヘリオグラフによる太陽観測初期成果：
 - 柴崎清登(国立天文台野辺山)
- 4) 公開講演会：星誕生の謎を探る
 - 電波でみる分子雲と原始雲—

福井康雄 名古屋大学理学部助教授

—光と赤外線で見える生成と進化—

佐藤修二 国立天文台助教授

当日の出席報道機関は6社であった。

また会期中に、内地留学奨学金選考委員会、評議員会、理事会が行われたが2日目午後4時30分から「天文学長期計画」の特別セッションがシンポジオン（C会場）で開かれ活発な議論が交わされた。その他に11の研究集会があった。

賛助会員のための展示コーナーには、(株)ニュートリノ1社が参加した。

懇親会は、第2日目(10月14日(水))午後6時～8時に豊田講堂ロビーで開催された。参加者は220名を超える盛況であった。

会期中、このロビーは、受付事務、展示コーナー、コーヒーブレイクに使用していた所なので、懇親会前後にはその準備、後かたづけなどアルバイト学生の活躍に負うところが多かった。

今回の年會に当り、(財)大幸財団様から、また

懇親会には、五島プラネタリウム様、(株)エイ・イー・エス様からご寄付をいただきたいへん感謝しております。

◎公開講演会

年會初日の10月13日午後6時から、名古屋市科学館・サイエンスホールで開催された。講演会は、名古屋市科学館の北原政子氏の司会で科学館館長の挨拶、天文学会理事長の講師紹介を兼ねた挨拶から始まったが、定刻には会場(320名)はすでに80%が埋まっていると云う状態であった。

講演は、星の生成の様子を条理を追って説明された福井氏、独特な話術で説明された佐藤氏のそれぞれのお話は、なかなか含蓄のある内容で、活発な質疑が幾つも交わされた。

なお、この講演会は、日本天文学会・名古屋市科学館の共催で行なわれたもので、開催に当たっては会館側から資金を含めたお世話をいただき感謝しております。

天体発見報

種類：周期彗星の回帰検出

天体名：1992 t スイフト・タットル周期彗星
(P/Swift-Tuttle)

発見者：木内鶴彦(長野県白田町)

発見日時：1992年9月26日18時10分(世界時)

発見位置：赤経 $11^{\text{h}}47.5^{\text{m}}$ 、赤緯 $+59^{\circ}00'$ (J2000.0)

発見時等級：11.5等

発見方法：15cm 25倍双眼鏡

軌道要素：(B.G.マースデンによる)

Epoch=1992 Dec. 4.0 TT

T=1992 Dec.12.391 TT	$\omega=152.979$	} J2000.0
e=0.96362	$\Omega=139.430$	
q=0.95876 AU	$i=113.408$	

a=26.35441 AU

$n^{\circ}=0.007285$ P=135.29年

発見天体について：

スイフト・タットル彗星はペルセウス座流星群

の母彗星で、1862年7月にアメリカのスィフトとタットルによって発見された。同年の観測データに基づいた120年周期を採ると1982年に回帰するはずであったが、1973年にマースデンにより1737 II彗星と同一である可能性が指摘され、1992年に回帰する可能性もあった。今回の検出がそれに当たるのではないかという国立天文台の指摘に、天文電報中央局も同意しており、1737 II=1862 III=1992 t=スイフト・タットル周期彗星の確立に大きく近づいたと思われる。

1992年9月29日 香西洋樹(国立天文台)